

令和4年度 教育事務事業点検評価報告書

令和6年3月

宮古島市教育委員会

目 次

事務事業の点検評価書発行にあたって	・・・・・・・・	1
1. 点検評価について		
(1) 点検評価の趣旨	・・・・・・・・	2
(2) 本市の主要施策		
(3) 点検・評価の方法		
2. 事務事業評価一覧表	・・・・・・・・	2
事務事業点検評価書		
1. I-1 スクールバス運行管理事業	・・・・・・・・	3
2. I-2 閉校学校跡利用の促進	・・・・・・・・	4
3. I-3 宮古島市次世代教育ICT整備事業	・・・・・・・・	5
4. I-4 コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)推進事業	・・・・・・・・	6
5. I-5 選手派遣費支援事業	・・・・・・・・	7
6. I-6 学校施設改修事業	・・・・・・・・	8
7. II-1 図書館資料整備事業	・・・・・・・・	9
8. II-2 移動図書館事業	・・・・・・・・	10
9. II-3 みやこ少年少女合唱団補助事業	・・・・・・・・	11
10. III-1 八重干瀬及び周辺地域自然環境保全活用促進事業	・・・・・・・・	12
11. III-2 文化振興事業	・・・・・・・・	13
12. III-3 宮古島市民総合文化祭事業	・・・・・・・・	14
13. III-4 「劇団かなやらび」支援事業	・・・・・・・・	15
14. III-5 市埋蔵文化財公開活用事業	・・・・・・・・	16
15. III-6 埋蔵文化財関係費	・・・・・・・・	17
16. III-7 博物館運営事業	・・・・・・・・	18

事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第26条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を聴取する形の有識者会議を開催し、教育主要施策3項目のうちから16事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

令和6年3月

宮古島市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 点検評価について

(1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、今後の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は令和元年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

(2) 本市の主要施策

- I 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進
- II みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実
- III 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸能活動の推進
- IV 家庭・学校・地域社会の連携で進める青少年健全育成の推進
- V 多都市間交流の推進

(3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の指標で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

(4) 外部評価委員（学識経験を有する者）

下地 信輔	元宮古島市教育委員
野原 敏之	元宮古島市教育委員
饒平名 和枝	宮古島市文化協会会長

2. 事務事業評価一覧表

評価書番号	所管課	事務事業名	評価
I-1	教育総務課	スクールバス運行管理事業	B（継続）
I-2	教育総務課	閉校学校跡利用の促進	B（継続）
I-3	学校教育課	宮古島市次世代教育ICT整備事業	A（拡充）
I-4	学校教育課	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進事業	A（拡充）
I-5	学校教育課	選手派遣費支援事業	A（拡充）
I-6	教育施設課	学校施設改修事業	A（拡充）
II-1	図書館	図書館資料整備事業	B（継続）
II-2	図書館	移動図書館事業	B（継続）
II-3	中央公民館	みやこ青少年少女合唱団補助事業	B（継続）
III-1	生涯学習振興課	八重干瀬及び周辺地域自然環境保全活用促進事業	B（継続）
III-2	生涯学習振興課	文化振興事業	B（継続）
III-3	生涯学習振興課	宮古島市民総合文化祭事業	B（継続）
III-4	生涯学習振興課	「劇団かなやらび」支援事業	B（継続）
III-5	生涯学習振興課	市埋蔵文化財公開活用事業	A（拡充）
III-6	生涯学習振興課	埋蔵文化財関係費	B（継続）
III-7	総合博物館	博物館運営事業	A（拡充）

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

I 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

スクールバス運行管理事業

【目的・計画概要等】

統廃合により遠距離通学となった児童・生徒の通学を支援するため、スクールバスを運行し、管理を行う。

○伊良部島小学校・中学校 スクールバス 2 台

○城東中学校 スクールバス 2 台

【実施状況】

スクールバス運行管理事業は、これまで個人委託業務として運用してきましたが、令和4年度より事業者と契約し運行と管理業務を委託しております。 そのことにより、代理運転者の確保及び運転手への研修実施、健康管理、専門的指導が可能となる。 また、事業者を担当者を配置することで、運行業務をスムーズに実施出来る。 ○結の橋学園利用乗車延べ人数 31,564名 ○城東中学校利用乗車延べ人数 23,508名 ※一般財源には、修繕費・燃料費・車検費等が含まれています。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	23,639,270 円
	計	23,639,270 円

【担当者説明】

区 分	説 明	内 部 評 価	
必要性	統廃合により遠距離となった児童生徒、及び保護者の負担軽減を図るため必要。	総合評価：B 個人への委託から、事業者へ委託することにより、代替運転手の確保や運転手の精神的不安を少しは解消できた。引き続き、運行管理業務により安心安全な運行業務を図りたい。	総合評価
効率性	一般の路線バスを使用するより、ルート確保及び時間の設定が可能となり効率性は高い。		B
有効性	多くの児童生徒が申請し利用しており、学校としても校外授業に積極的に活用が図られている。		

* 総合評価（A = 拡充 B = 継続 C = 改善 D = 廃止 E = 完了）

【外部評価】

学校統廃合により遠距離通学となった児童の通学手段を確保することは、学校統合の際に父兄との約束事です。安全で安心できる通学するために事業者と業務委託することはプロの運転手を配置することができ、職員の負担も軽減されることと思います。また車両の維持管理については故障による車両不足が起きないように十分な整備と車両入替及び配置がスムーズに行えるように車両の購入計画等しっかり計画することが大事なことと考えられます。	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

I 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

閉校学校跡利用の促進

【目的・計画概要等】

学校統廃合により閉校となった学校の跡利用を促進する。

廃校となった学校： ①旧来間小中学校 ②旧宮原小学校 ③旧宮島小学校
 ④旧伊良部小学校 ⑤旧佐良浜小学校 ⑥旧伊良部中学校
 ⑦旧福嶺中学校 ⑧旧城辺中学校 ⑨旧砂川中学校

【実施状況】

令和3年度に、閉校跡利用方針を作成し、その方針に基づき、令和4年度に宮古島市閉校学校施設個別計画を策定した。個別計画には、閉校学校施設の基本的な考え方、優先順位、計画を進めていく中での課題等、学校毎の方向性を定めた。 ○旧来間小中学校不動産鑑定 1,408,000円	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,408,000 円
	計	1,408,000 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	廃校跡利用は、地域の関心も強いことから、跡利用の方針やプロセスを明確にし有効活用を図る必要がある。	総合評価：B 廃校跡利用は、跡利用についての方針や廃校ごとの個別計画を作成し取り組んでいる。学校跡地は地域の振興や課題解決に繋がる施設だと思うので今後も廃校跡利用の促進を図っていく。	総合評価
効率性	解体すると、経費負担も大きくなることから、跡利用により効率性を図ることが可能となる。		
有効性	多方面から跡利用について問い合わせがあることから跡利用については期待できる。		B

* 総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

廃校学校の跡利用は地域の意見を十分に汲み取り個別に計画を練り込んでください。廃校になる学校は50年以上の歴史のある学校がほとんどです安易に売却や解体せずに地域に利用しやすい仕組みを考えてください。ぐずぐずしていると建物の老朽化すすみ解体ありきになってしまいがちです。迅速な対応をおねがいします。	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

宮古島市次世代教育ICT整備事業

【目的・計画概要等】

GIGAスクール構想の実現と、「宮古島市教育情報化推進計画」に基づき、学校教育における「情報活用能力」育成のための環境整備や ICT活用推進を進める。

ネットワーク、パソコン、電子黒板、ICT支援員、ソフトウェア等

【実施状況】

【次世代教育ICT整備事業】			決算額（財源内訳）	
事業名	内容	決算額	国・県	円
ICT支援員報酬等	支援員6名の報酬、期末手当、教育支援委託業務等	23,723,583	地方債	円
教育系パソコン及びプリンター更新業務	教育系PC700台、プリンタ100台等の賃貸借契約	42,530,400	その他	3,400,000 円
教育ネットワークシステム更新業	教育系ネットワークの更新及び管理業務	54,780,000	一般財源	178,217,681 円
公立学校情報機器設備事業学習者用タブレット賃貸借	宮古島市立小中学校の学習者用タブレット5200台の賃貸借契約	19,067,400	計	181,617,681 円
インターネット通信料	校務用及び学習者ネットワーク通信料、モバイルWi-Fiルーター510台の通信料等	10,371,513		
その他消耗品費、修繕費、委託費用等	PC等修繕費、電子黒板保守委託料、ライセンス使用料等	31,144,785		

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	情報活用能力の育成は必要不可欠であり、そのための環境整備は必須である。	総合評価： 令和4年度はICT支援員の人員を4名から6名に増員し、教員のサポート環境の充実に努めた。 また、教職員用PCやネットワークの更新を行い、学習eポータルへの導入や認知機能強化トレーニングソフトを導入した。	総合評価
効率性	整備内容については適正であり、効率的と考えている。		B
有効性	学校現場での活用のため、必要な環境整備がされており、有効である。		

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

多くの機器やソフト導入し、教育環境の充実は図られているが、費用対効果がいまいち見えてこない。今後はその費用対効果がどれだけあったのかを示していくことが、ICT整備にはずみがつくと思う。	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進事業

【目的・計画概要等】

【目的】
本市は、少子高齢化や地域の過疎化により、地域の発展を担う人材を育成することが求められている。その解決に向けて、学校と地域が連携・協働し、子供のより良い育ちを通して地域の活性化、特色ある学校、地域創りをめざす仕組みとして、コミュニティスクールの導入を推進する。

【計画概要】
令和8年度までに各中学校区へ導入をめざすが、地域の特性や学校規模等に応じて弾力的な導入も検討する。
令和4年度→導入準備・計画の策定等（研究指定校委託 先進地域・先進校視察等含む）
令和5年度→池間小中校区 城東中校区
令和6年度→西辺中校区 狩俣中校区 鏡原中校区 結の橋校区
令和7年度→久松中校区 下地中校区 上野中校区
令和8年度→平良中校区 北中校区

【実施状況】

○宮古島市教育委員会研究指定校として池間小・中学校を指定。令和5年度からの導入に向けて研修・準備を進める。 （研究指定校委託料 200,000円） ○先進地域・先進校視察を実施→名護市及び屋我地ひるぎ学園を視察 （学校教育課長・担当主事分旅費 57,960円） ○宮古島市学校運営協議会規則の策定	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	257,960 円
	計	257,960 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	地域を担う人材育成は本市の課題であり、学校と地域の連携・協働が求められている。	総合評価：A 事業として必要性が高く、準備年度として効率性・有効性とも高い事業実施ができたと考えられる。次年度から令和8年度まで順次導入を進めていくことから、本事業の拡充が必要である。	総合評価
効率性	準備年度と位置づけ、研究指定校委託や視察等を実施し、効率的な運用ができた。		
有効性	次年度からの導入に向けて、導入計画や規則の策定ができ、スムーズな導入が期待できる。		A

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって目標やビジョンを共有した「地域とともにある学校づくり」が推進されています。令和4年度よりコミュニティ・スクール導入に向けての研修や準備が進められており、順次、学校への導入が実施されると思います。地域を担う人材の育成は重要なことであり、学校と地域が連携・協働し、未来を担う子供たちの豊かな学びや成長を支える教育体制の整備等がしっかりと構築されるよう期待いたします。	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

選手派遣支援事業

【目的・計画概要等】

宮古島市立学校のスポーツ・文化活動を振興するため、対外行事・試合などの奨励に資するとともに、参加する児童生徒の派遣にかかる費用の保護者負担を軽減する目的で、航空運賃と楽器輸送費用を補助する。
【補助対象経費】 航空運賃（県内1/2、県外7/10）、楽器輸送費・上限5万円。
【事業の目的】 島外の人との競争や交流の機会を増やすことで児童生徒に広い視野を持たせる。
【成果目標】 保護者に対するアンケート「児童生徒が広い視野を持てたか」（80%以上）
【令和4年度の主な変更点】
 ・ 県内派遣は、地区予選がない大会も可（フリーエントリー大会可）。
 ・ 県内派遣回数：同種の大会4回まで可。
 ・ 県代表選抜等の合同練習補助あり。 ・ 指導者への補助あり。
 ・ 学校だけでなく、団体からの申請も可。

【実施状況】

○派遣人数 県内2,703人、県外143人、合計：2,846人 ○主な派遣先 ・小学生 県内「第21回沖縄県ミニバスケットボール・オールスターGAMEin那覇大会」33名 県外「モダンプロジェクトカップ第11回全九州学童軟式野球大会」17名 ・中学生 県内「第62回沖縄県吹奏楽コンクール」80名 県外「第67回九州吹奏楽コンクール」45名	決算額（財源内訳）	
	国・県	18,933,000 円
	地方債	0 円
	その他	7,700,000 円
	一般財源	124,062 円
	計	26,757,062 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価
必要性	宮古島市は、島嶼県の離島であると同時に、高失業率や世帯所得水準の低い中、児童生徒が県及び全国大会等へ出場する際の旅費の捻出が、保護者にとって大きな負担となっている。	総合評価：A＝拡充 新型コロナウイルス感染症の影響が減少する中で、補助対象を拡大し、補助額は前年度比約2倍となった。 また、保護者アンケートでも高評価を得ており本事業のニーズは依然として高いことが伺える。 今後は県立学校を補助対象に加えるにあたり、主要施策の目標項目および担当課が適切か、検討を要する。
効率性	一括交付金の対象経費については、8割が補助される。対象外経費については、全額市費負担となり効率性に著しい差がある。	
有効性	保護者アンケートでは「児童生徒が広い視野を持てたか」に対し「そう思う・ややそう思う」との回答率が98%であった。	
		総合評価 A

* 総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

宮古島市の多くの事業の中でも保護者から高い評価をされている事業である。宮古島の子ども達がいろいろな活動で活躍できるように、拡充を図っていただきたい。県立学校の補助については、小中学生への補助が圧迫されないように考慮してほしい。	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育施設課

【主要施策】

I 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

学校施設改修事業

【目的・計画概要等】

安心安全な教育環境の充実を図るため、幼稚園・小学校・中学校の危険個所の改良・修繕等を実施する。

【実施状況】

			決算額（財源内訳）		
			国・県	円	
○小学校	修繕費	8,352,150円	34,414,901円	地方債	円
	工事費	26,062,751円		その他	円
○中学校	修繕費	5,820,369円	36,346,689円	一般財源	73,460,766円
	工事費	30,526,320円		計	73,460,766円
○幼稚園	修繕費	2,025,631円	2,699,176円		
	工事費	673,545円			

【担当者説明】

区分	説明	内部評価
必要性	各学校より多くの要望が寄せられており、早急の対応が必要。	総合評価： 毎年、各学校より大小様々な修繕や改修等の要望が寄せられているが、限られた予算の中で優先順位を考慮しながらその都度、対応を行っている。今後も、学校側との調整を図りながら、安心安全な教育環境の充実に向けて取り組みを進めていきたい。
効率性	危険性や、緊急性を考慮し、優先順位をもって、実施を行っている。	
有効性	園児、児童、生徒の教育環境の充実が図れる。	
		総合評価 B

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

各学校からの要望を受け、児童生徒の安全安心な施設管理を行うため予算に応じた適正な修繕、改修事業が進められている。今後は学校からの要望だけでなく積極的に現場を視察して、早めの対応ができるようにしてほしい。	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：図書館

【主要施策】

Ⅱ-1 みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

【事務事業名】

図書館資料整備事業

【目的・計画概要等】

子どもからお年寄りまで誰でも気軽に利用できる「くらしの中の図書館」を目指すため、市民の多様な要求に即した資料（図書・視聴覚資料等）を収集する。

【実施状況】

蔵書冊数：179,534冊（うちR4年度購入7,426冊） 年間貸出数：216,735冊 ※R3年度貸出数177,479冊より39,256冊の増加 年間入館者数：139,589人 ※R3年度年間入館者数77,244人より62,345人の増加 リクエスト・相互貸借受付：255件 レファレンス：1,253件 総登録者数：31,143人	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	13,341,100 円
	計	13,341,100 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価
必要性	市民の生涯学習や、生活の中の様々な疑問に対応する資料の充実が公共図書館の重要な役目である。	総合評価： 通常の選書、季節や社会的な話題に対応した企画コーナーの設置に加え、リクエストや相互貸借、レファレンスなど市民のニーズにきめ細かく対応。全体として利用や貸し出しは大幅な伸びをみせた。「郷土の歴史と文化講座」などの行事も徐々に再開し、関連資料の貸し出しなどにつなげた。
効率性	社会の変化に応じ新しい資料を取り入れるため、資料購入のための投入コストは不可欠である。	
有効性	図書館の資料を充実させることで、島しょ地域にあっても、充実した市民生活のサポートが可能である。	
		総合評価 B

* 総合評価（A = 拡充 B = 継続 C = 改善 D = 廃止 E = 完了）

【外部評価】

年間貸出冊数や年間入館者数も増加し、市民の生涯学習の拠点としての図書館サービスが充実していることが伺えます。また、公共図書館の役割として市民のニーズや課題解決に繋がる資料購入、レファレンスサービスへの対応など、多様な資料の収集は市民生活の向上のためにも必要不可欠なものです。今後とも、子供からお年寄りまで気軽に図書館サービスが享受できるよう、図書館資料の整備・充実に取り組んでいただきたいと思います。	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：図書館

【主要施策】

Ⅱ-1 みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

【事務事業名】

移動図書館事業

【目的・計画概要等】

遠隔地住民に図書館サービスが行き渡るよう移動図書館車にて巡回を行うとともに、図書資料の充実を図る。市民ひとりひとりが居住エリアに近いステーションで多様な本と出会うことで、豊かな心と確かな和を育むことが出来るように、幅広い地域へ読書の機会を提供する。

【実施状況】

令和4年度（R5年3月31日現在）			決算額（財源内訳）	
	巡回場所数	貸出冊数	国・県	円
小学校	12	16,800	地方債	円
中学校	6	1,244	その他	円
小中学校	2	2,422	一般財源	1,658,471 円
保育園・幼稚園	5	1,543	計	1,658,471 円
その他	12	4,853		
計	37	26,862		

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	遠隔地住民が図書館サービスを楽しめるようにするためには、移動図書館車の巡回、みーやの本棚業務を実施する必要がある。	総合評価： 住民はどこに住んでいても図書館サービスを受ける権利があり、図書館はすべての住民に均等に図書館サービスが行き渡るよう努めなければならない。そのため、図書館への来館が困難な遠隔地への移動図書館の巡回及びみーやの本棚業務の実施は重要な役割を持ち、今後も継続していく必要がある。	総合評価
効率性	多様な読書機会を提供出来るよう資料の収集や図書館で行っているサービスの周知を図っている。		B
有効性	宮古島市民に広く読書の機会を提供出来るよう努めている。		

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

<p>コロナ禍が緩和され、移動図書館の巡回がより充実している状況にあり、遠隔地住民に図書館サービスが行き渡るようになったことは大変良いことです。現在は、運転手不足も改善されており、移動図書館のステーション数も増加、「みーやの本棚」は福祉施設等での利用が増えるなど、移動図書館の果たす役割は大きいと感じます。今後とも、移動図書館車の図書資料を充実させ、市民一人一人に読書の機会が提供できるよう努めて頂きたいと思っております。</p>	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：中央公民館

【主要施策】

Ⅱ みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

【事務事業名】

みやこ少年少女合唱団補助事業

【目的・計画概要等】

合唱をととして、情操豊かな人間性と協調性を培うとともに団員相互の友情を深め、健全な青少年を育成する。

【実施状況】

年間をととして毎週土曜日に中央公民館にて練習を行い、定期演奏会の開催や市の主催するイベントや県の合唱祭等に積極的に参加しており、宮古における各種イベントにも出演している。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	500,000 円
	計	500,000 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	宮古全域から小・中学生が一堂に会し友情を深め、美しいハーモニーの創造に取り組んでいる	総合評価：B 合唱団は昭和49年に結成され49年目を迎えており、これまで多くの卒団生を輩出しており、卒団生からは幼いころのステージでの感動体験はかけがえない宝物であるとの声がある。 豊かな情操を養うとともに団員相互の友情を深め健全な青少年を育成する事業になります。	総合評価
効率性	合唱をととして情操豊かな人間性を養い、青少年の健全育成に役立っている。		B
有効性	市のイベントや地域の諸活動に積極的に参加し、宮古の文化振興に寄与している。		

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

活動を通して情操豊かな人間性と協調性を培うとともに、団員相互の友情を深め健全な青少年を育成する、まさにその通りだと思います。少年少女合唱団の活動は、いろいろな行事等で活躍しており市民の皆さんも認識している。これまでの活動だけでなく、他市町村、他団体と交流できるように予算の拡充をしてほしい。	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅲ 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進（2. 文化財の保存と活用）

【事務事業名】

Ⅲ-1 八重干瀬及び周辺地域自然環境保全活用推進事業

【目的・計画概要等】

八重干瀬は、国指定名勝及び天然記念物（文化財）となっているが、同時に自然公園法第1条に定める「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与すること」ができる可能性を有している。

国定公園は県が国の指定を申請し、指定後は県管理となることから、本事業では、八重干瀬とその周辺地域について、県に対して国定公園指定にふさわしい自然環境と保全体制があることを示すため、自然環境の現況調査と保全活用体制の整備を図る。

事業スケジュール

実施事項	R4	R5	R6	R7	R8	R9
生物調査	●	●	●	●		
地形図整備	●					
地形地質調査			●	●		
補足調査					●	●
成果広報・啓発		●	●	●	●	●
保全体制構築		検討	検討	●	●	●

【実施状況】

- ①令和4年度調査の結果に基づき、令和5年度では、海域においてサンゴの詳細な分布・種類組成調査、陸域においては詳細な植物群落の構成調査等を実施した。
- ②関連自治会、観光事業者、行政関係者に対象地域の利用や保全等の関する聞き取り調査を行った。
- ③八重干瀬等の保全に向けた情報共有及び関心醸成のため、事業経過説明会を市民一般向け（1/27@未来創造センター）、池間・狩俣・島尻住民向け（2/9@狩俣集落センター）に実施した。また年度内には追加で大神住民向け（日程調整中@大神島）も予定している。

決算額（財源内訳）	
国・県	31,416,000 円
地方債	円
その他	円
一般財源	7,854,000 円
計	39,270,000 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価
必要性	損なわれつつある自然環境の保全についての市民ニーズは高い。	総合評価： ①国定公園にふさわしい自然環境が存在することがデータで示されつつある。当初計画通り継続調査が必要。 ②説明会参加者へのアンケートから、関心の高さが示された。関心をもつ市民を増やせるよう、引き続き広報・啓発が必要。 ③保全vs開発というような意見対立が生じないよう、関係者への丁寧なアプローチによる保全体制構築が今後の課題。
効率性	受託企業に丸投げせず、専門性のある担当職員が事業進捗に深く関与している。	
有効性	豊かな生物多様性が明らかになりつつある。説明会参加者の関心もかなり高かった。	
		総合評価 B

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

宮古島バブルと言われる社会現象で自然環境や海岸線の破壊が加速度的にすすんでいます。観光産業との共生を図りながら地域や文化を守りながら共に発展していくような地域づくりが大切だと思えます。今は専門的な調査研究が主体で地域の住民の目に届きにくい面があると思えますが事業経過の説明だけでなく、成果物の発表パネル展示など市民の目につくような企画も増やしてほしい。国定公園ひいては世界遺産の登録に期待します。	総合評価 B
--	---------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅲ 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進

【事務事業名】

宮古島市民総合文化祭事業

【目的・計画概要等】

「創造する市民の文化」をテーマに、市民による文化芸術の発表の機会を設けることにより、次世代の文化の担い手を育み、新しい文化の創造や先人達から培ってきた地域文化の伝承・発展に寄与するとともに、宮古島市の文化を広く発信することを目的とする。また、広く児童・生徒へ参加を呼びかけることで、文化芸術のレベルの向上やそれぞれの地域文化の認識及び共有に努める。

<児童・生徒の部> (主管：宮古島市教育委員会)

- ・部門：書道・美術・文芸展（俳句・短歌・作文・詩）・自由研究・工作
- ・郷土のお話大会・音楽祭はコロナウイルスの影響で中止

<一般の部> (主管：宮古島市文化協会)

- ・市民文化祭補助・・・1,400,000円
- ・展示部門：園芸・盆栽・茶道・文芸・方言・美術・写真・生活文化・織物・書道
- ・舞台部門：音楽祭・芸能祭・子どもシアター・芸術劇場
- ・史跡めぐり

【実施状況】

＜一般の部＞	決算額（財源内訳）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月14日／芸術劇場「創作の世界」／マティダ市民劇場 ・ 10月15日／音楽祭／マティダ市民劇場 ・ 10月21日～23日、28日～30日／展示部門／未来創造センター ・ 10月23日／芸能祭／マティダ市民劇場 ・ 10月30日／表彰式／未来創造センター ・ 11月 3日／史跡巡り ・ 12月18日／子どもシアター／未来創造センター 	国・県
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10月29日～30日／各部門入賞作品展示／未来創造センター ・ 12月24日／表彰式／市役所大ホール 	地方債	円
<p>＜児童・生徒の部＞</p> <p>郷土のお話大会、音楽祭はコロナウイルスの影響で中止</p>	その他	円
	一般財源	949,180 円
	計	949,180 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	市民の芸術発信・振興の場としての拠点である	<p>総合評価：</p> <p>本文化祭は、市民各層の文化活動の拠点であり、ニーズは高く、市文化行政の要として文化活動への市民参加の促進、関係団体の育成や連携強化を図るための施策として重要である。</p> <p>文化協会や各学校とさらに連携し、より多くの市民が文化芸術へ触れる機会となるよう努めたい。</p>	総合評価
効率性	児童・生徒の部と一般の部の作品展示を同じ会場で同時期に開催し、市民全体の関心を高める		
有効性	幅広い分野への市民の参画の機会を創る		

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

<p>市民各層による文化芸術の成果発表の場として、市民総合文化祭は多くの市民から好評を得ています。次世代の文化の担い手の育成や地域文化の伝承・発展に寄与するとともに、文化都市をめざす本市に於ける文化芸術の向上など、文化活動に参加する市民の関心を高めているものと感じます。今後とも市民の文化力を高めるとともに、市民総合文化祭を通して、地域文化の魅力が島内外に発信していただきたいと思っております。</p>	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅲ 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進

【事務事業名】

市埋蔵文化財公開活用事業

【目的・計画概要等】

宮古島市内で発掘調査された資料を活用した文化講座・シンポジウムを実施することで、市民の歴史・文化への理解を深め、発掘調査資料を積極的に利活用を図ることができる。また、これまでは、講座に関する関連展示を市役所の関連機関の空きスペースを利用していたが、常設展示室及び企画展示室等を整備することで、これまで以上の宮古島の歴史と文化の発信を強化することができる。

【実施状況】

第1回 宮古島市の発掘調査からみた本土復帰50年 展示会 日時：令和4年9月1日（木）～10月6日（木） 第2回 平良地区の戦争遺跡 展示会 日時：令和4年6月9日（木）～7月1日（金） 第3回 宮古島の海の歴史にふれる～18世紀・19世紀の西洋沈没船と宮古島～ 巡検 日時：令和4年7月29日（金）午前10時～午後3時 第4回 宮古島市最大の集落遺跡・住屋遺跡 展示会 日時：令和4年10月24日（月）～12月2日（金） 第5回 宮古・八重山の英雄と遺跡 展示会 日時：令和5年2月1日（水）～2月28日（火）	決算額（財源内訳）	
	国・県	16,252,000
地方債		円
その他		円
一般財源	4,063,945	円
計	20,315,945	円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	発掘調査で出土した資料を公開し、展示会、文化講座で活用する。	総合評価： これまで宮古島市で発掘調査された資料の多くは収蔵室に収蔵されていることが多いが、本事業では、これらの資料を公開し、各テーマを設けて、関連する文化講座やシンポジウムを開始している。対象とする時代も先史時代から沖縄戦時までと幅広いが、各展示会、文化講座、シンポジウムには、多くの市民の方々の参加があり、埋蔵文化財の視点から宮古島市の歴史を掘り下げ、普及・啓発活動の推進を図っていく。	総合評価
効率性	歴史文化資料館での展示室、講座室を活用し、県内外の専門家の招聘を行う。		
有効性	各企画展、文化講座とも多くの来館者があり、市民の関心の高さが伺える。		B

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

発掘調査により掘り出された資料が目の目をみることは喜ばしいことです。埋蔵文化財ではないですが宮古島の古い建物が取り壊されたり投資家によってリフォームされたりして、ないかもしれないけどもしかしたら貴重な文献や写真、その他の歴史的遺物や資料が廃棄されていると考えられます。せめて無人の家屋が解体される前に調査に入れるようなシステムも考えてほしい。期待します。	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅲ 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進

【事務事業名】

埋蔵文化財関係費

【目的・計画概要等】

本事業では、国指定重要無形文化財宮古上布と、その糸を製作する技術である苧麻績みの技術の伝承と普及・啓発活動を推進するために、歴史文化資料館を拠点とした利活用をすすめる。また、埋蔵文化財の発掘調査及び資料整理業務を進め、これらの資料を適切に保存・管理していくために、歴史文化資料館の環境整備をすすめていく。

【実施状況】

・国指定重要無形文化財の宮古上布及び苧麻糸績みの技術の伝承及び普及啓発を進めるために、文化財普及推進員1名を雇用する、また、埋蔵文化財に係る調査及び資料整理を進めるため、埋蔵文化財調査員1名を雇用する。 ・歴史文化資料館内には、これまでの発掘調査で出土した資料が保管されているとともに、市史編さん事業に係る資料も多数収蔵されている。これらの資料を適正に保存・管理していくために、歴史文化資料館内の機械警備や、消防点検、文化財環境調査業務、資料館燻蒸業務を行い、館内の資料の保存・管理に必要な環境整備を行っていく。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	12,256,940 円
計	12,256,940 円	

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	宮古上布や苧麻糸績みや、埋蔵文化財資料の公開、活用への市民の関心は高い。	総合評価： 歴史文化資料館内では、市史編さん業務、埋蔵文化財資料整理業務、展示・文化講座など多様な業務を行っており、機会警備や、文化財環境調査業務などの資料館の適正な管理を行うことで、来館者が安心して利用できる環境づくりにつとめている。また、宮古上布や苧麻糸績みなどの無形文化財や、埋蔵文化財に係る会計年度任用職員も雇用し、技術の伝承や普及啓発活動の充実化を図っている。	総合評価
効率性	適正に資料の保管・管理を行うことで、資料の活用の頻度も高まる		B
有効性	宮古上布や苧麻糸績みの展示会や講座への参加者は非常に多く好評である。		

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

文化財関係の仕事は地味な作業が多く大変だとも思います。専門職を雇用し発掘作業や保存、なくなりつつある伝統技術の継承も大きな仕事の一つと考えられます。歴史資料館は学校教室を利用したもので文化財等の保管には厳重な管理体制が必要と感じます。文化財は増え続けます、後世に残すためにも資料の適正な分類、保管を行うため施設整備や人員の確保は必要と感じます。	総合評価
	B

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：総合博物館

【主要施策】

Ⅲ 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進

【事務事業名】

博物館運営事業 / 企画展事業

【目的・計画概要等】

資料の収集・保管を強化し、調査研究を促進することで地域の財産を未来に継承していく。企画展等を通して、来館者が宮古地域の歴史や文化、自然の再発見をする場となるような事業を推進する。施設が老朽化する中、修繕や機能改善等の実施に努めていく。

【実施状況】

企画展 2回、平和展 1回、ミニ展示 4回 こども博物館 6回開催 博物館講座 1回開催 入館者数 15,034人 委託業務 4件 扁額保存修復委託業務（忠勲流芳） 金頭銀荃簪複製製作委託業務 古文書等修復・複製製作委託業務 剥製・骨格標本作製委託業務	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	2,558,250 円
	一般財源	36,816,235 円
	計	39,374,485 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	宮古島市の歴史や文化等の継承のために必要である。	総合評価： 令和4年度は、いままで延期となっていた企画展や平和展の開催や教育普及活動である子ども博物館講座などを通し宮古島の文化継承を行っている。また収蔵品の修復や複製作成などにより展示の充実を図っていく。	総合評価
効率性	企画展等を開催することで、広い分野の歴史、文化等を周知することが可能である。		B
有効性	広く宮古島市民や観光客に事業内容を公開し、文化の継承に資することができる。		

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

昨年に引き続き博物館の運営事業です。前年に引き続き厳しい予算での企画展の開催や博物館講座等の運営に敬服します。文化財の修復には国や県の補助メニューはないのか精査してほしい。保存資料のデジタル化もすすめHP等での公開も早急におねがいしたい。	総合評価
	A